



寒さが残るため「衣をさらに重ね着する＝衣更着(きさらぎ)」が語源とされる説がある。春の兆しが見え始める季節。

てくてく情報



寒い時期には冬芽の観察はいかがでしょう♪



冬に観察した冬芽はぜひ春の芽吹きも見てください! どんなものが出てくるかな♪

冬芽(とうが・ふゆめ)は、葉や花、枝になる芽が、冬の寒さや乾燥から自分を守るために形成する休眠状態の芽ことです。樹木ごとにさまざまな形があり、ここでは鱗芽(りんが)と裸芽(らが)についてご紹介します。それぞれの特徴を観察すると、植物たちの工夫が見えてきて、冬ならではの楽しみ方が広がりますよ!

----- 個性あふれる冬芽たち、今だけのお楽しみ★ -----

鱗芽

(りんが)は、若葉のもとになる部分が「芽鱗(がりん)」と呼ばれるもので包まれている冬芽です。芽鱗には、魚の鱗のように重なっているもの、毛皮のコートのようにふんわり覆うもの、そして一枚の芽鱗が帽子のようにかぶさっているものなど、さまざまなタイプがあります。

裸芽

(らが)は、芽鱗を持たず、縮んだ葉がそのまま外に出ていて、冬の冷たい空気に直接さらされています。ただ、多くの裸芽は細かい毛に包まれていて、その毛が寒さから守る役目をしており、冬でも安心して過ごせるようになっています。



こちらら鱗芽。芽吹いた様子。中にこんなに葉っぱがはいつている!



鱗芽。春になるとスズランのようなカワイイ花を咲かせる♪

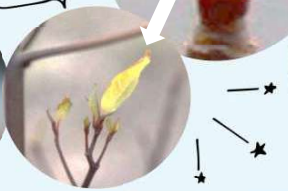


裸芽。名前のおり、芽吹いたときの新葉が赤い。



裸芽。葉痕との組み合わせがカワイイ!

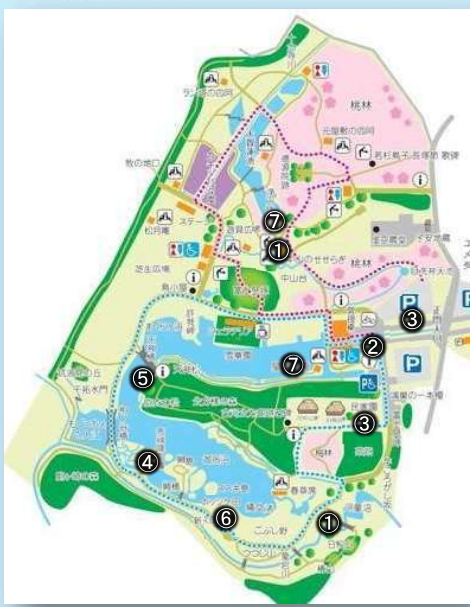
帽子のような芽鱗の中にはふわふわの花。



鱗芽。樹脂でベトベトにコーティングされ、ツヤがある。



園内マップ



2 冬の水辺の笛吹き鳥を探そう



社交的な性質を持ち他のカモ類と混群を形成する姿も見られます♪

ヒドリガモは、全長約48cmの中型のカモで、冬鳥として日本全国に渡来します。オスは頭部が赤褐色で、額が黄色く、胸は淡い紫色を帯びています。脇や背中中は白い羽に黒い細かい線が入り、遠くから見ると灰色に見えることがあります。メスは全体的に褐色で、上面には黒褐色の斑があり、個体によっては頭から背にかけて黒みが強いものも見られます。くちばしは青灰色で先端が黒く、脚は灰黒色です。鳴き声は「ピューイツ」や「ピューウーウ ピューウーウ」といった口笛のような音で、英語では「Whistling Duck(口笛カモ)」と呼ばれることもあります。食性は植物質を好み、水草を食べるほか草や植物の種子も食べるため、陸に上がった姿も観察することができますよ。



Instagramアカウント



Xアカウント

